

**自分がすき！ 友だちがすき！ 大山田がすき！**

## 1 学校教育目標

確かな学力と豊かな心、健やかな体、そして実践力のある子どもの育成

## 2 めざす子ども像

- ① 自ら課題をもち、意欲的に学習できる子
- ② 互いのちがいを認め合い、自分もなかまも大切にできる子
- ③ 自分の可能性にチャレンジできる、心身ともに健康な子

## 3 めざす教師像

- ① 授業を大切にし、楽しくわかる授業に取り組む教師
- ② 人権感覚を磨き、子どもの個性を引き出し伸ばす教師
- ③ チームワークを大切にし、組織として行動する教師
- ④ 子ども・保護者・地域の人々に親しまれ、信頼される教師

## 4 努力目標

学ぶ楽しさ、わかる喜びが実感  
できる授業の創造

生命・人権を尊重し、人間性豊かな  
子どもの育成

キャリア教育の推進と、  
心身ともに健康な子どもの育成

地域に根ざした学校づくりの推進

## 5 努力目標を具体化する視点

### (1) 学ぶ楽しさ、わかる喜びが実感できる授業を創造する。

- ① 教材を深く研究し、子どもが学ぶ楽しさを実感できる授業づくりに取り組む。
- ② 子ども一人ひとりが自ら課題をもち、課題解決に向けて、自ら考えたり、多様な他者とのかかわりの中で解決しようとしたりする授業づくりに努め、子どもたちが自律した学習者となるよう支援する。
- ③ GIGA スクール構想に基づく「人」台端末の効果的な活用を図る。
- ④ 授業や家庭学習等を通して、基礎的・基本的な学力の定着を図る。
- ⑤ 子ども自ら学習する意欲を育てるために、家庭学習を充実させる。
- ⑥ 子どもの読書習慣を形成するため、学校図書館の整備や読書機会の確保、読書活動の普及啓発等に取り組む。
- ⑦ 全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェック等の取組から、子どもたちの学力実態を把握し、指導改善に生かす。

### (2) 生命・人権を尊重し、人間性豊かな子どもを育成する。

- ① 人権への理解を深め、自他の人権を守り、差別のない社会の実現に向けて実践行動ができるようにするとともに、自己肯定感や命を大切にすることを育てる。
- ② 個別の人権課題を解決するための学習、子どもの権利に関する学習をカリキュラムに取り入れ、系統的な取組を行う。

- ③ 「障がい」のある子どもたちの自立を支え、交流学习を中心にして、ともに学びともに高まり合う関係づくりに努める。
- ④ 幅広く専門的な知識と経験を持ったゲストティーチャーを招き、その人の生き方や現実の社会について学ぶ。
- ⑤ 教職員自身の人権感覚や感性を高める。
- ⑥ 校区のこども園や中学校・地域との連携を密にし、系統的な人権教育カリキュラムを推進する。
- ⑦ 共生社会についての理解の増進に資することをふまえ、手話をはじめとする福祉教育に取り組む。

### (3) キャリア教育の推進と、心身ともに健康な子どもを育成する。

- ① 出会い学習等を大切にし、子ども一人一人の夢を育てるキャリア教育を推進する。
- ② 学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、多様な選択肢の中から進路を決定する力や人間関係を築く力を身につけられるよう、職場見学等、地元企業等の協力を得て、発達段階に応じたキャリア教育を推進する。
- ③ 生活習慣の確立や健康・安全に関心を持つなど、自らの生活を創る力を育成する。
- ④ 自分の命を自分で守る力を身につけられるよう、防災訓練や防災学習の取組を進める。
- ⑤ 子どもの健康や体力の状況を把握し、安全や健康に対する基礎的事項の習慣化と体力の増進を図る。

### (4) 子どもの安心安全を保障する。

- ① 「危機管理マニュアル」を熟知し、危険を未然に防止する。万が一事件・事故が発生した際は、被害を最小限にするために、適切かつ迅速に対応する。

### (5) 地域に根ざした学校づくりを推進する。

- ① 学校運営協議会を活用し、保護者や地域の声を学校運営や教育活動に生かす。
- ② 家庭・地域社会との相互理解を深め、協働しながら地域の教育環境を整える。
- ③ 学校・学級から保護者や地域の人々への情報発信を行う。
- ④ 「学校評価アンケート」を実施し、学校経営に生かす。

て

### (6) 働き方改革を実行し、活力ある職場環境づくりを推進する。

- ① 校内安全衛生委員会を定期的開催し、総勤務時間の縮減や教職員の健康保持等について協議を行い、具体的な行動につなげる。
- ② 年次休暇の計画的な取得や定時退校日の設定等、時間外勤務の縮減に取り組み、心身のリフレッシュができるような職場の環境づくりを行う。
- ③ 教職員の綱紀粛正と服務規律を確保するため、コンプライアンスミーティングを開催し、コンプライアンスを意識した職場づくりに取り組む。

#### 【活動指標】

・設定した日の定時に退校できた職員の割合 80%・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 80%

#### 【成果指標】

・年360時間を超える時間外労働者数 0人・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人

・1人当たりの月平均時間外労働 30時間以下・1人当たりの年間休暇取得日数 15日以上

- ④ 校務分掌の要職にミドルリーダーを起用したり、効果的なOJTを実施したりする中で人材育成をはかる。また、経験豊富なベテラン教職員がそれを支える。